

令和5年3月1日

先日、会社から帰宅する途中で、西に向かって歩いていると、夜空に明るい光が見えまして、しかも2つ並んでおりまして、星にしては明るいような、飛行物体にしては動いてないしなあと思いながら、後で調べてみました。そうしたら、木星と金星でした。この、2月下旬から3月上旬くらいまでの間、木星と金星が大接近しているらしく、特に今日明日は月の直径くらいの距離まで近づくようです。夜空で最も明るい金星（マイナス4等星）と2番目に明るい木星（マイナス2等星）が接近するのですから、最接近時の美しさを見るのは楽しみです。この木星と金星の接近自体は毎年のようにあるので珍しいものでもないのですが、ゴールデンタイムにこんなに接近して綺麗に見えるという条件が揃うのは次は40年後らしいですよ。寒いですから足下ばかりを見がちですが、フツと夜空を見上げてみましょう。

私が朝礼で星の話をするのは何年振りでしょうか。前回お話したのは、さそり座のアンタレスの話でしたね。アンタレスは550光年離れているから、今見ているアンタレスの光は550年前に発せられた光、応仁の乱の頃の光とお話したのを覚えています。この550年のあいだにアンタレスが消滅していたとしても、その消滅を知るのはそこから550年後。宇宙の事を考えるとなんだかロマンを感じます。

ロマンという言葉は何気なく使っておりますが、どんな意味かと調べてみると、夢や憧れを想うことという意味らしいですね。このロマン、幸せの追求には重要なファクターであるように最近思っております。しかしながら、コロナ禍で行動が制限される中、ロマンを感じる場面も少なくなっていたように感じます。

そのコロナ禍もいよいよ出口が近づいてきました。ロマンの感じ方は人それぞれ、私のように宇宙にロマンを感じる人もいれば、旅行にロマンを感じる人もおられるでしょう。一度は閉ざされたかもしれないロマン、またそれぞれで再開していければと思います。

以上

代表取締役社長 角高哲治